

2025年7月17日開催！

タベスケオンラインイベントレポート ～導入自治体に学ぶ食品ロス削減のヒント～

- ✓ タベスケの導入を迷っている
- ✓ 他市の事例が知りたい



目次

- 01 はじめに
- 02 現在のタベスケについて
- 03 三島市の事例紹介：タベスケと食品ロス削減施策
- 04 参加自治体の感想
- 05 まとめ



01 はじめに

2025年7月17日に、タベスケの導入自治体と導入検討中の自治体を対象とした「タベスケオンラインイベント～導入自治体に学ぶ食品ロス削減のヒント～」が株式会社G-Placeによって開催されました。

本イベントでは、自治体代表としてタベスケを積極的に活用している静岡県三島市様より、食品ロス削減施策とタベスケ活用事例について紹介いただき、各自治体の食品ロス削減への課題意識やタベスケの活用方法について情報交換・質疑応答などが行われました。



イベント開催概要

開催日時：2025年7月17日（木）

テーマ：導入自治体に学ぶ食品ロス削減のヒント

主催：株式会社G-Place

参加対象：タベスケ導入自治体職員・導入検討中自治体職員

開催形式：オンライン（Zoom）

参加人数：約30人

プログラム：

1. 本イベントのねらい
2. 現在のタベスケについて
3. 事例紹介：静岡県三島市様
4. 質疑応答

現在のタベスケ実績報告（2025年6月末時点）

自治体数	ユーザー数（人）	協力店数（店舗）	取引成立件数（件）	削減量（t）
29	103,528	828	49,292	42.3

※リリース日：2021年3月

2025年上半期の活動報告

- 1月：大学等での食品ロスに関する講義を実施
- 4月：万博会場限定で「万博タベスケ」をリリース
 - ・ユーザー数：約12,714人
 - ・マッチング率：約79%（3ヶ月平均）
- 6月：ユーザー利用規約の制定（無断キャンセル対策）

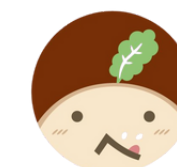
万博タベスケ
B A M P A K U T A B E S U K E

2025年上半期の活動予定

- 8月・9月：デザイン改修を予定（視認性向上）

その他の活動

- ・ X（旧Twitter）運用（フォロワー数1900名以上）



@tabesuke_green

- ・ 料理研究家 島本みゆき氏とのコラボコラム掲載



課題と今後の解決策

- ・ 食品ロスに対する住民・店舗のイメージの認識の差
- ・ 食品ロス削減には、住民と自治体の認識の差を埋める継続的な啓発が必要

03

三島市の事例紹介：タベスケと食品ロス削減施策

みしま タベスケ

フードシェアリングサービス「みしまタベスケ」を1年間（令和6年10月1日～令和7年9月30日）試験的に導入

食品ロス削減量

約 **2.5**t



取引件数

約 **5,000**件



協力店舗数

38店舗

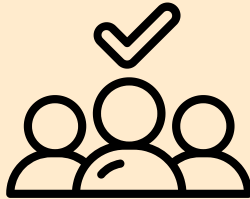


販売金額

約 **300**万円



運用上の工夫について[💡]

協力店募集時 	• Google検索等で市内の食品関連店舗（小売店等）に電話や訪問 • 商工会議所との連携による店舗への呼びかけ • 食品ロスに係る事業者への意識調査結果の活用 • 保健センターとの連携（イベントなどで約3,000枚のチラシ配布を依頼）
ユーザー確保 	• 広報誌、SNS、イベント、メディア露出による周知 • 市独自の広報誌「ごみ減量トレンドィ」での特集記事（2ページ）が影響し、一般ユーザーが約500人増加 • 人気店の確保（特に女性向け） • イベントでの地道なチラシ配布の継続 • 地域で評判の高いケーキ店やパン屋など、人気の店舗を積極的に確保 • 小売店をターゲットに多様な商品出品を促す • 商品の出品がないとユーザー離れにつながるため、店舗へ定期的な出品を促す • 店舗へのコンサルティング（例: 写真の撮り方、出品頻度の提案）の実施
商品の出品継続 	• 開始後3ヶ月間は、定期的な連絡や訪問で出品を促すことが重要 • 出品方法やSNSでの見せ方など、商品出品のサポートを行う • 将来的に市職員に限られた人員になっても、初期の集中対応で軌道に乗せることによって可能にする • ユーザー数が増えることで商品の売れる確率が上がり、店舗の出品意欲を維持 • ユーザー数が伸び悩むと商品が売れなくなり、出品が減少するという負のスパイラルを避けるため、ユーザー確保が不可欠

今後の展望



• 店舗の自走化の推進

- 今後の職員数減少に対応するため、店舗が主体的に商品を出品できる自走する仕組みの構築が不可欠
- サービス開始初期の協力体制が自走化に繋がる重要な要素

• フードシェアリングの普及

- 「タベスケ」を含め、フードシェアリング事業が当たり前の社会になることで、ユーザーの増加が見込まれる
- 多くの自治体での導入により、スケールメリットを活かす事ができる

• 食品ロス削減への貢献

- 食品ロス削減は「ごみ減量」であり、その取り組みは地道だが重要
- 「メルカリでまだ利用できる廃棄品を売る」「タベスケでロスになりそうな食品を売る」といった発想で活用しつつ、一つのイベントとして認知してもらいながらメディアの協力も含め普及を目指す

• 日本のフードシェアリング普及の課題と可能性

- 欧米では一般的なフードシェアリングが日本ではまだ浸透していない現状がある
- 行政が主体となって取り組む「タベスケ」のようなモデルは、民間任せでは難しい普及の可能性を秘めている
- 手頃な費用と、ユーザー数や出品状況などの集計がスムーズに行える点が、「タベスケ」の強みであり、今後の展開に期待される



04

参加自治体の感想

セミナーアンケートを行った結果、回答いただいた約20件すべて「少し満足」「満足」と回答しており、総合的な満足度は100%でした。

Q今回のイベントの満足度を教えてください

● 満足 ● 少し満足

満足度
100%

満足度の理由

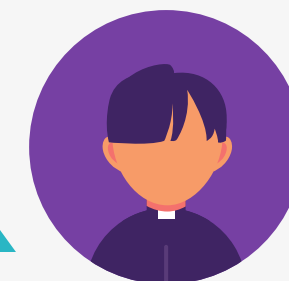


実際にタベスケを導入している自治体（三島市）からの話を聞いたことで、運営の利点やリアルな状況が把握でき、導入に前向きになれた。



参加自治体や参加希望自治体の様子が分かり、モチベーション向上に繋がった。

他自治体の取り組みや成功事例（協力店の勧誘方法、メディア活用、保健センター・商工会議所との連携など）を知ることができ、参考になった。





今回のイベントでは、登壇された三島市様へのメッセージとして、その取り組みや熱意、積極的な働きかけが今後の「タベスケ」導入・運営の目標となるという声が多く寄せられました。具体的な質問への回答や詳細な説明に対する感謝が伝えられたほか、「タベスケ」導入を検討している自治体からは、今後の期待や個別相談を希望する声も上がりました。特に、協力店舗の確保と継続的な出品の重要性に関する三島市様の話は、多くの自治体にとってとても参考になるものであったようです。

また、G-Placeへの今後の企画要望としては、引き続き各自治体の取り組みに関する情報共有の機会を希望する声が多く聞かれました。具体的には、食品ロス削減月間などの新規企画提案のほか、効果的な協力店の募集方法に関する情報提供や事例共有の要望がありました。さらに、「タベスケ」の広域化（周辺自治体への導入勧誘）や、近隣市と連携した利用キャンペーンの実施、全自治体の良い取り組み事例をまとめた資料の配布、成功事例を持つ協力店を集めた説明イベントの開催、自治体担当者への取材コラム掲載、協力自治体間の相互PRイベントの仲介といった提案などが今回のアンケートを通して期待していただいていることがわかりました。

G-Placeは、皆様からの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後も「タベスケ」がより良いサービスとなるよう、引き続き尽力してまいります。



会社概要

会社名： 株式会社G-Place(読み：ジープレイス)

代 表： 代表取締役 綾部 英寿

創 業： 1968年5月7日

所在地： 【東日本】

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-26
浜町京都ビル3F

【西日本】

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F

\ タベスケ検討中の自治体の皆さま /
お気軽にお問い合わせください



フードシェアリングサービス

タベスケ

T A B E S U K E



東日本：03-3663-8745

西日本：06-6210-6666



kssp@g-place.co.jp